

7. 各大学提供科目

⑤ 各科目のシラバス

・ 双方向ライブ型遠隔科目

ライブ配信（教養科目）			10101	
倉敷まちづくり基礎論			村山 公保	
Foundation of Kurashiki Community Development				
1～4年次	単位数 2	前期	1コマ	
<p><b>【授業の目的】</b>  倉敷は全国的に見ても特別な街である。しかし、倉敷市に住んでいても、何が特別なのか、明確に説明できる人は少ない。本講義では、倉敷について理解を深めるとともに、倉敷内外で行われている地域のまちづくり活動について学ぶ。日頃からまちづくりについて考えようとする心を育てながら、まちづくりに参加するときの土台となる基礎力を身につける。  具体的には倉敷の歴史や産業、観光の現状を知るとともに、市民・行政など様々な組織・団体から講師を招いてまちづくりの話の聞いたり、倉敷美観地区を実際に歩いて目で見て肌で感じたり、学生同士で討論したり、それを自分の言葉でレポートにまとめるなどして、まちづくりに関する理解を深め、意識を高める。</p> <p><b>【到達目標】</b>  ・倉敷についての理解が深まる。  ・まちづくりに関する興味・関心が高まる。  ・自分の考えや意見を持ち、それを発言したり、文章に書いたりする能力が高まる。  ・まちづくりやまち歩きについて、グループ内で話し合ったり、グループで一緒に行動したりできるようになる。</p> <p><b>【授業外学習】</b>  ・外部講師の講演のあとは、毎回、その内容に関するミニレポートを作成する。定期試験の時に提出する。  ・グループ単位で、(1)美観地区界隈を歩く、(2)自分たちで決めた場所を歩く、ということを行い、グループ単位でレポートを作成し、グループ単位で発表し、発表時にレポートを1部提出する。(ライブ参加者は1名のグループになる可能性がある)</p> <p><b>【注意事項】</b>  ・外部講師等の都合により日程や内容が変更になる場合がある。授業内容に(未確定)と書いてあるものは内容・実施日が未確定である。4/12までに決定している予定である。  ・この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れる。グループワークを行うので、グループのメンバーと連絡を取り合い、お互いに協力しながら、まち歩き、レポート作成を行うこと。</p>				
<p><b>【授業内容】</b>  第1回:(4/12):授業の進め方の説明、まち歩きレポートの説明、受講者全員の自己紹介  第2回:(4/19):倉敷市の観光について(未確定)  第3回:(4/26):まち歩きの計画を立てるグループワーク(未確定)  第4回:(5/10):倉敷の歴史について(未確定)  第5回:(5/17):大原美術館誕生の歴史と作品について(未確定)  第6回:(5/24):倉敷市伝建地区・伝美地区の住民によるまちづくりについて(未確定)  第7回:(5/31):リノベーションによるまちづくり(未確定)  第8回:(6/7):美観地区まち歩き報告会(未確定)  第9回:(6/14):地域と生きるゲストハウスによるまちづくり(未確定)  第10回:(6/21):水島地区の歴史と地域の人によるまちづくりの活動について(未確定)  第11回:(6/28):行政によるまちづくり(未確定)  第12回:(7/5):江戸の古民家を活用したまちづくりについて(未確定)  第13回:(7/12):香川県高松市丸亀町商店街の再開発について(未確定)  第14回:(7/19):個別まち歩き報告会(未確定)  第15回:(7/28):まとめ(未確定)</p>				
<p><b>【テキスト】</b> 特に使用しない。</p>				
<p><b>【参考図書】</b> 必要に応じて紹介する。</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>  ・定期試験100%で評価する。内容は「外部講師の講演や町歩きを通して得たこと」など、授業を通して得たこと、グループワークでの役割等を記述する。ミニレポート、まち歩きレポートを答案の信ぴょう性の検証に使用する。</p>				

7. 各大学提供科目

・ 対面授業科目

対面授業（教養科目）			10001
倉敷まちづくり基礎論		村山 公保	
Foundation of Kurashiki Community Development			
1～4年次	単位数 2	前期	1コマ
<p><b>【授業の目的】</b>  倉敷は全国的に見ても特別な街である。しかし、倉敷市に住んでいても、何が特別なのか、明確に説明できる人は少ない。本講義では、倉敷について理解を深めるとともに、倉敷内外で行われている地域のまちづくり活動について学ぶ。日頃からまちづくりについて考えようとする心を育てながら、まちづくりに参加するときの土台となる基礎力を身につける。  具体的には倉敷の歴史や産業、観光の現状を知るとともに、市民・行政など様々な組織・団体から講師を招いてまちづくりの話の聞いたり、倉敷美観地区を実際に歩いて目で見て肌で感じたり、学生同士で討論したり、それを自分の言葉でレポートにまとめるなどして、まちづくりに関する理解を深め、意識を高める。</p> <p><b>【到達目標】</b>  ・倉敷についての理解が深まる。  ・まちづくりに関する興味・関心が高まる。  ・自分の考えや意見を持ち、それを発言したり、文章に書いたりする能力が高まる。  ・まちづくりやまち歩きについて、グループ内で話し合ったり、グループで一緒に行動したりできるようになる。</p> <p><b>【授業外学習】</b>  ・外部講師の講演のあとは、毎回、その内容に関するミニレポートを作成する。定期試験の時に提出する。  ・グループ単位で、(1)美観地区界隈を歩く、(2)自分たちで決めた場所を歩く、ということを行い、グループ単位でレポートを作成し、グループ単位で発表し、発表時にレポートを1部提出する。(ライブ参加者は1名のグループになる可能性がある)</p> <p><b>【注意事項】</b>  ・外部講師等の都合により日程や内容が変更になる場合がある。授業内容に(未確定)と書いてあるものは内容・実施日が未確定である。4/12までに決定している予定である。  ・この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れる。グループワークを行うので、グループのメンバと連絡を取り合い、お互いに協力しながら、まち歩き、レポート作成を行うこと。</p> <p><b>【授業内容】</b>  第1回:(4/12):授業の進め方の説明、まち歩きレポートの説明、受講者全員の自己紹介  第2回:(4/19):倉敷市の観光について(未確定)  第3回:(4/26):まち歩きの計画を立てるグループワーク(未確定)  第4回:(5/10):倉敷の歴史について(未確定)  第5回:(5/17):大原美術館誕生の歴史と作品について(未確定)  第6回:(5/24):倉敷市伝建地区・伝美地区の住民によるまちづくりについて(未確定)  第7回:(5/31):リノベーションによるまちづくり(未確定)  第8回:(6/7):美観地区まち歩き報告会(未確定)  第9回:(6/14):地域と生きるゲストハウスによるまちづくり(未確定)  第10回:(6/21):水島地区の歴史と地域の人によるまちづくりの活動について(未確定)  第11回:(6/28):行政によるまちづくり(未確定)  第12回:(7/5):江戸の古民家を活用したまちづくりについて(未確定)  第13回:(7/12):香川県高松市丸亀町商店街の再開発について(未確定)  第14回:(7/19):個別まち歩き報告会(未確定)  第15回:(7/28):まとめ(未確定)</p> <p><b>【テキスト】</b> 特に使用しない。</p> <p><b>【参考図書】</b> 必要に応じて紹介する。</p> <p><b>【成績評価の方法】</b>  ・定期試験100%で評価する。内容は「外部講師の講演や町歩きを通して得たこと」など、授業を通して得たこと、グループワークでの役割等を記述する。ミニレポート、まち歩きレポートを答案の信ぴょう性の検証に使用する。</p>			

7. 各大学提供科目

対面授業（教養科目）				10002
倉敷まちづくり実践論			小山 悦司	
Practice of Kurashiki Community Development				
履修年次	1～4	2単位	後期	1コマ
<p><b>【授業の目的】</b>          学生自身のキャリア形成力や社会人基礎力を高めるとともに、「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにした地域の活性化も目的としている。倉敷駅周辺および美観地区での実践的なフィールドワークやグループワーク（アクティブ・ラーニング）を行う。          こうした地域でのまちづくり活動を通して、課題を発見し、データを収集分析して、解決方法を提言できる能力を育成する。          また、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）として開催される「倉敷みらい講座」への参加を予定している。</p> <p><b>【注意事項】</b>          「倉敷まちづくり基礎論（前期）」を履修し、単位を取得しておくことが望ましい。          学内での授業に加えて、倉敷駅周辺や美観地区など、学外でも授業を実施する。会場の都合で日程が変更になる場合があるので留意していただきたい。</p>				
<p><b>【授業内容】</b></p> <p>1. オリエンテーション 【10月20日 3限(13:10-14:40)】          2. 倉敷中心市街地のまち歩き 【10月20日 4限(14:55-16:25)】          3. グループ編成+まちづくり実践活動プランの作成 【10月20日 5限(16:40-18:10)】          4～6. グループ活動—学生によるまちづくりの実践—          10/21～11/9の間に阿智神社秋の大祭(10/21)、「倉敷三斎市」(10/21)、「倉敷路地市庭（毎週土曜）」などにて実践活動 ※必要に応じて担当教員が巡回指導          7. 学生によるまちづくり活動の実践事例および基礎理論 【11月10日 3限(13:10-14:40)】          ※実践活動報告レポートⅠ提出          8. 9. 学生によるまちづくり活動の実践 【11月10日 4・5限(14:55-18:10)】          地域課題の解決に向けたグループワーク          10～12. グループ活動—学生によるまちづくりの実践—          11/11～1/27の間に、「倉敷三斎市」(11/18、12/16、1/20)、「倉敷路地市庭（毎週土曜）」などにて実践活動 ※必要に応じて担当教員が巡回指導          13. まちづくりに向けての提言（グループワーク） 【1月28日 3限(13:10-14:40)】          ※実践活動報告レポートⅡ提出          14. まちづくりに向けての提言（プレゼンテーション） 【1月28日 4限(14:55-16:25)】          15. 倉敷発！学生まちづくりアピール（提言レポート提出） 【1月28日 5限(16:40-18:10)】</p>				
<p><b>【テキスト】</b>          特に使用しない。</p>				
<p><b>【参考図書】</b>          適宜指示する。</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>          実践活動報告レポートⅠ・Ⅱ（20%）、まちづくり提言レポート（20%）、グループ活動・プレゼンテーション（20%）、実践活動への参加状況（40%）に基づいて、総合的に評価する。</p>				

## 7. 各大学提供科目

対面授業（芸術学部）			10003
西洋美術史		神原 正明	
History of Western Art			
履修年次 1～4	2単位	前期	1コマ
<p><b>【授業の目的】</b>  西洋美術の歩みを原始時代から近代の始まりまでをたどっていきます。時代はそれぞれの形の特性を持っています。たとえばエジプトとギリシャではまったく異なった美意識によって、それぞれの形が生まれてきました。両者には優劣の差はないのですが、わたしたちはしばしば現代の美意識で時代の優劣をつけてしまいがちです。ここではそれぞれの時代が生み出した形の誕生の物語を、グローバルな視点から追いかけてみたいと考えています。細かなデータはできるだけ切り捨てて、現在文化遺産として残されている視覚的資料を見ながら、本質的な形の歴史をたどりたいと思っています。一言でいうと「美術作品を通してその背後にある人類の精神文化の普遍性と多様性を理解すること」となります。</p> <p>配布資料をホームページで公開しています。詳しくは、  <a href="http://www.kusa.ac.jp/~kambara/western.htm">http://www.kusa.ac.jp/~kambara/western.htm</a></p>			
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 原始の造形</li> <li>3. 古代エジプト美術</li> <li>4. 古代ギリシャ美術</li> <li>5. 古代ローマ美術</li> <li>6. 中世ヨーロッパ美術</li> <li>7. イタリア初期ルネサンス</li> <li>8. 北方ルネサンス</li> <li>9. イタリア盛期ルネサンス</li> <li>10. イタリア・スペインのバロック美術</li> <li>11. 17世紀オランダ・フランドル美術</li> <li>12. 17世紀フランス美術</li> <li>13. ロココ美術</li> <li>14. 近代美術のはじまり</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<p><b>【テキスト】</b>  『快読・西洋の美術』神原 正明著（勁草書房）</p>			
<p><b>【参考図書】</b>  『世界美術大全集・西洋編』全28巻（小学館）</p>			
<p><b>【成績評価の方法】</b>  授業に取り組む姿勢（40%）、レポート（60%）で評価する。</p>			

7. 各大学提供科目

対面授業（芸術学部）			10004
デザイン史		近藤 研二	
History of Design			
履修年次 1～4	2 単位	前期	1 コマ
<p><b>【授業の目的】</b> 産業革命以降におけるデザインが真の現代的意味をそなえるまでの経過を、美術の歴史的な流れや社会的背景を踏まえながら考察する。</p>			
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 19世紀前期の建築・工芸</li> <li>3. 近代グラフィックの始まり</li> <li>4. ウイリアム・モリスの美術工芸運動</li> <li>5. アールヌーボー運動とその意義</li> <li>6. 新しい材料と工学の発展</li> <li>7. ドイツ工作連盟とその周辺</li> <li>8. バウハウス確立までのヨーロッパとアメリカ</li> <li>9. バウハウスの理念（1）</li> <li>10. バウハウスの理念（2）</li> <li>11. アメリカ大陸のデザイン動向</li> <li>12. 第二次大戦後のモダンデザインと美術</li> <li>13. 第二次大戦後のグラフィックデザイン</li> <li>14. 1970年以降のポストモダンデザインと美術</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<p><b>【テキスト】</b> 使用しない</p>			
<p><b>【参考図書】</b> 適宜紹介する。</p>			
<p><b>【成績評価の方法】</b> 授業に取り組む姿勢、課題レポートと定期試験で評価を行う。 評価は、受講態度（30%）、定期試験（70%）の割合で評価する。</p>			

## 7. 各大学提供科目

対面授業（危機管理学部）				10005
倉敷産業研究			村山 公保 他	
Kurashiki Industrial Research				
履修年次 2～4	2 単位	後期	1 コマ	
<p><b>【授業の目的】</b> 岡山・倉敷地域を中心に企業経営の現場で日々奮闘されている経営者や業界リーダーの方々を週替わりで招聘し、起業のいきさつや企業経営のポイントを、それぞれ独自の切り口で語っていただき、受講生の起業・企業経営上の意識向上を図る。</p> <p><b>【授業外学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内で学んだこと グループ単位で外部講師の講演を通して得たことをまとめる。 まとめた内容は授業中に発表する。</li> <li>・ 学外見学で学んだこと グループ単位で企業見学、工場見学、イベント参加、体験会参加等を行い、レポートにまとめる。 まとめた内容は授業中に発表する。 2 箇所(2 種類)に参加し、レポート発表は 2 回になる。</li> </ul>				
<p><b>【授業内容】</b></p> <p>第 1 回:(9/29):授業方針の説明  第 2 回:(10/6):倉敷の産業変遷と将来展望(未確定)  第 3 回:(10/13):地域経済の活性化と金融 (未確定)  第 4 回:(10/20):起業と経営(未確定)  第 5 回:(10/27):警察と防犯と地域産業(未確定)  第 6 回:(11/10):消防と防災と地域産業(未確定)  第 7 回:(11/17):学外見学で学んだことの発表会(1 回目)  第 8 回:(11/24):後半の授業を総合して学んだことの発表  第 9 回:(12/1):行政の経営と地域産業(未確定)  第 10 回:(12/8):会社経営と I T(未確定)  第 11 回:(12/15):岡山県企業と海外進出(未確定)  第 12 回:(1/12):道の駅と地域貢献(未確定)  第 13 回:(1/19):両備ホールディングスの事業展開(未確定)  第 14 回:(1/26):学外見学で学んだことの発表会(2 回目)  第 15 回:(2/2):後半の授業を総合して学んだことの発表</p> <p><b>【テキスト】</b> 特に使用しない。</p> <p><b>【参考図書】</b> 特になし。</p> <p><b>【成績評価の方法】</b> 下記の割合で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内で学んだことのレポート・発表 50%</li> <li>・ 学外見学で学んだことのレポート・発表 50%</li> </ul>				

7. 各大学提供科目

対面授業（生命科学部）				10006
水族飼育技術論				山野 ひとみ
Breeding Technology of Aquatic Animals				
履修年次 2～4	2単位	後期	1コマ	
<p><b>【授業の目的】</b>  水族の飼育は、生物の収集から始まり、輸送、収容、維持・管理までの一連の過程から成り、その過程で発生する社会的、生物学的および技術的な問題を解決することで成立する。本講義では、水族飼育の基本的な流れを解説するとともに、飼育の過程で発生する様々な問題を取りあげ、その解決方法を紹介する。</p> <p><b>【到達目標】</b>  水族飼育の基礎知識を身につけることができる。  各分類群の特徴を踏まえ、飼育過程で生じる問題およびその解決法を理解し説明できるようになる。</p> <p><b>【授業外学習】</b>  講義内容に関するレポートを課すことがあるので、各回の予習と復習をしておくこと。</p>				
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 水族を飼育するために</li> <li>2. 水族の収集と輸送</li> <li>3. 水族の飼育設備</li> <li>4. 飼育水の浄化について</li> <li>5. 水族の飼育環境と病気</li> <li>6. 水族の病気1（ウイルス、細菌病）</li> <li>7. 水族の病気2（寄生虫）</li> <li>8. 水族の餌料と栄養</li> <li>9. 魚類の餌料</li> <li>10. 無脊椎動物の餌料</li> <li>11. 水族の繁殖1（魚類）</li> <li>12. 水族の繁殖2（無脊椎動物、哺乳類）</li> <li>13. 水族の飼育と保存</li> <li>14. 水族の飼育と保護</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
<p><b>【テキスト】</b>  講義資料としてプリントを配布する。</p>				
<p><b>【参考図書】</b>  渡邊武編「改訂 魚類の栄養と餌料」（恒星社厚生閣）、日本ビタミン学会編「ビタミンの辞典」（朝倉書店） 日本動物園水族館協会編「新・飼育ハンドブック」1～4巻</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>  レポート（40%）、定期試験（60%）。</p>				

## 7. 各大学提供科目

対面授業（生命科学部）				10007
バイオメカニクス			枝松 千尋	
Biomechanics				
履修年次 3～4	2単位	前期	1コマ	
<p><b>【授業の目的】</b>  安全に効率的にスポーツのパフォーマンスを向上させるためには、スポーツ技術の裏側にあるものを理解し、分析し、そして新たなものを創造することが必要である。  本講義では、力学・人体解剖学・運動生理学の複合領域であるバイオメカニクスを学び、科学的な視点からスポーツ技術を理解することを目指す。  ・力学の基礎を身につける。  ・スポーツ技術をバイオメカニクスの観点から考察できる能力を身につける。</p> <p><b>【連絡事項】</b> 電卓を持参すること。</p>				
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 身体バイオメカニクスの特性と動作解析へのアプローチ法</li> <li>3. 身体重心（慣性質量と慣性モーメント）</li> <li>4. 加速度・速度・変位</li> <li>5. 力</li> <li>6. 運動量と力積</li> <li>7. 投射体の運動</li> <li>8. 力学的エネルギー・仕事・パワー</li> <li>9. 力のモーメントと角運動量</li> <li>10. 関節トルク</li> <li>11. 流体力学（空気・水の力とスポーツ）</li> <li>12. スキルのバイオメカニクス（1）</li> <li>13. スキルのバイオメカニクス（2）</li> <li>14. スキルのバイオメカニクス（3）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>				
<p><b>【テキスト】</b>  阿江 通良・藤井 範久 著「スポーツバイオメカニクス20項」（朝倉書店）</p>				
<p><b>【参考図書】</b>  プリント等配布</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>  授業に取り組む姿勢と小テスト（40%）、定期試験（60%）により評価する。</p>				



## 7. 各大学提供科目

対面授業（生命科学部）				10008
医学概論			藤本 一満 他	
The introduction to medical science				
履修年次 1～4	2 単位	前期	1 コマ	
<p><b>【授業の目的】</b>          これからの医療の特徴の一つは、医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師、栄養士等専門性の異なる様々なスタッフがチームを組み、さらには福祉関係など医療に関連する分野の職種とも連携を取りながら、質の高い医療サービスを展開する点にある。本講義では医療全体を見渡す広い視野を持ち、医療を支える専門職に共通の基礎知識を学ぶことを目的とする。</p>				
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床検査のあゆみ①（藤本）</li> <li>2. 臨床検査のあゆみ②（藤本）</li> <li>3. 医療における臨床検査（藤本）</li> <li>4. 人体臓器について（三宅）</li> <li>5. 各種がん細胞について①（三宅）</li> <li>6. 各種がん細胞について②（三宅）</li> <li>7. あなたの身近に潜む感染症—AIDS（森）</li> <li>8. これからの医療—再生医療①（森）</li> <li>9. これからの医療—再生医療②（森）</li> <li>10. 免疫学概論（山崎）</li> <li>11. 感染症学総論①（山崎）</li> <li>12. 感染症学総論②（山崎）</li> <li>13. 血液細胞の一生と生体防御について（渡部）</li> <li>14. 血栓止血の不思議について（渡部）</li> <li>15. 臓器移植（輸血）について（渡部）</li> </ol>				
<p><b>【テキスト】</b> 必要時にプリント配布</p>				
<p><b>【参考図書】</b>          現代医学概論 第2版 医歯薬出版</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>          授業に取り組む姿勢(30%)、定期試験(70%)で評価する。</p>				